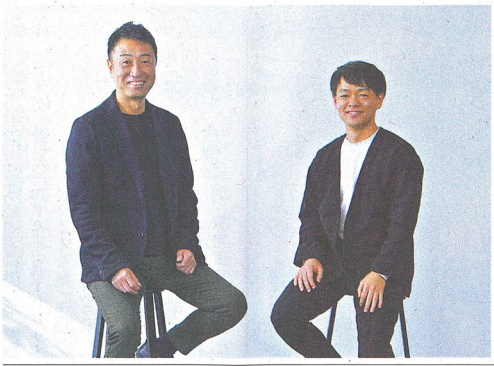
# 空調・冷熱業界、DXが成長の鍵に

## アンドパッド×ヤブシタ対談

### 建設業の2024年問題、新風吹き込む2社が語る

## ANDPADで新しい働き方を

アンドパッド（社長＝稲田武夫氏、本社・東京都千代田区神田練塀町300）が展開するクラウド型建設プロジェクト管理サービス「ANDPAD」は、クラウド上で現場に関係する情報を一元的に管理し、現場に携わる社内外の関係者が情報を共有できるツールである。その幅広い機能と使いやすさ、導入後もユーザーに伴走する手厚いサポートにより、建設業界で大きなシェアを占めている。リフォーム会社向けの施工管理ツールとしてスタートしたANDPADは、近年は空調・冷熱を含む設備工事分野にも導入の裾野を広げている。一方、空調・冷熱業界において常識を打ち破り、同じように新しい風を吹き込んでいるのがヤブシタ（社長＝森忠裕氏、本社・札幌市中央区北1条西9―3―1）だ。空調室外機の防雪フードに代表されるオプション部材メーカーとしてトップシェアを誇る同社は、15社からなるヤブシタグループを構成。そのうち冷熱設備会社であるヤブシタ冷熱設備はANDPADのユーザーでもある。この4月から建設業界にも残業上限規制が適用され、DXの重要性がますます高まる中、現場経験を有する森社長と、アンドパッドで設備工事会社全般を管掌する長屋悠史氏に、DXによる空調・冷熱分野の成長の可能性と新しい働き方について語ってもらった。



ヤブシタ・森忠裕社長

アンドパッド・長屋悠史執行役員

**【現状の課題感】**

森：色々な会社で『社員が課長や部長になったがらない』という話をよく聞きます。管理職は、一番働き、一番責任があっても（労働基準法に基づく「管理監督者」に当たるため）残業代がつきません。残業代をもらっていた時の方が給料は高いし責任も軽いのですから、なりたがらないのも当然でしょう。私はこうした仕組みは前々からおかしいと感じており、当社は2年前より管理職にも残業代をきっちりと支払う体制としました。それでいて経常利益も黒字を続けています。社員がお客様にしっかりとしたパフォーマンスを発揮できれば、お客様から社員を評価して頂き、仕事も増えていきます。根元的に一番大事なのは社員です。その思いから実施している取組です。

建設業界では、現場監督が寝る間も惜しみ、毎月150時間を超える残業をしている方もいると聞きます。（今月からの残業上限規制により）労働者の法定残業時間を超える分の業務は管理職に移行するとすれば（心のバランスを崩し）鬱病になってしまう管理職も増えてしまうのではないでしょうか。

ところでANDPADはすごいシステムですね。びっくりしました。私も現場上がりですので、昔からこれが欲しかったです（笑）

アンドパッド・長屋悠史執行役員（以下、長屋）：有難うございます。仰って頂いたように『もっと早く来てよ』と言われることがよくあります（笑）

私は空調や電気等のサブコン部門の責任者をしていますが、昨年と一昨年で、全国250社ほどにお会いしました。同じように評価して頂けるのですが、『どうすればよいか分からない』と言う方、サブコンさんでは『（発注元である）ゼネコンさんが変わらないとどうしようもない』と言い、何も対策をされていない方もおり、そこに『それでよいのでしょうか』と問いかけることで、共感頂ける方もいれば、そうでない方もいるというのが現状です。

森：これまでのように残業ができなくなるのですから、今後は業務効率化を図るしかない、そのためにはDXしかないと思います。ANDPADを利用すれば、協力会社の一元管理も含めて、感覚的には3～4割時間を減らすことができ、残業問題も解決できるのではと思いました。

ヤブシタ・森忠裕社長

アンドパッド・長屋悠史執行役員

長屋：ただ導入頂いたお客様の中でも、進みがが速い方もいれば、今までのやり方をなかなか変えられない方もいらっしゃいます。

森：私はもともとI993年に三菱電機グループに入社しました。当時はやっと一人にI台のPCが与えられるようになった時代でしたが、その時も『PCなど触らない』という方が多くいました。確かに当時は打ち込む時間を考えたら手書きの方が早かったのです。今は（やり方を変えない方は）どういう方が多いですか。

長屋：年代に依ってしまう印象です。若い方は問題なく、導入の翌日から使い始めるのですが、50代を過ぎた辺りから、取り組む方と取り組まない方とに半々で分かれる形です。初めてのツールなので一歩目のハードルが高く、そこを乗り越えられるかどうかがポイントになっています。

森：管理職の残業が強烈に増える中、対処法は多くありそうにも思えますが、DXのほかに方法はありません。であれば諦めて、ANDPADを使えば自分の時間ができると考えた方がよいのではないですか（笑）

長屋：ただ、仰って頂いたような考え方で動けている会社は、ごく一握りだと思っています。設備工事会社はエリアによってIT投資に温度差があります。確かに一部では『今は再開発の仕事が続いているけれども、この波はいずれ下がる』と見て、その時に優位性を出すために設備工事の幅を増やしたい、その教育用にANDPADを使いたいという方もいます。ですが、そうした考えを持つ会社は東京や札幌など都心周りの会社に限られます。それ以外の地域でDXと言うと、現場の残業時間をいかに減らせるかがメインテーマです。

**【ヤブシタのDXと設備工事会社のDX】**

森：ヤブシタではモノから図面化する「リバースエンジニアリング」を取り入れています。ガンタイプの測定機械で室外機をなぞると、0・1㎜以内の誤差で図面化してくれるというものです。これまでも当社は特注品の対応が素早く、他社が3～6ヵ月かかるところを1～1・5ヵ月で対応し、トップシェアを頂くようになったのですが、ただこれまでは現場調査に時間がかかり、しかも測定には技術が必要で、限られた中堅社員しか対応ができませんでした。ところが今回ガンタイプの機械を導入したことで、新入社員でも対応が可能となります。業務効率向上と共に、お客様への回答が速くなり、企業の「価値」になっていきます。

私は、社員が仕事ばかりしていてはいけないと考えています。当社では業務中にゴルフ練習をやらせたり、無農薬農法ヤブシタ農園に行かせたりしています。色々な価値観の中で様々なものを育てていかなければならないというのが、当社のスタイルです。DXで時間ができれば、自分へのご褒美に使えばいいんです。DXはそういうものでなければなりません。今後AIが入ってくれば、確実に時間が余ります。その時間をどのように使うかが、AI投資やDXの継続的なテーマだと思います。

長屋：ただ、仰って頂いたように、若手を辞めさせないよう努力しなさいとも言っています。DXを導入すれば、より強く若い布陣を保つことができ、企業が生き残る確率が上がります。

**【DXの必要性とAI戦略】**

森：中小企業の建設・土木作業員の平均年齢は45歳前後、一方でヤブシタ冷熱設備の平均年齢は35～36歳と若いです。今後、高齢化により仕事を受けきれない会社が多くなると、若い人の採用さえ間違わなければ、黙っていても仕事は来る。私はヤブシタ冷熱設備に『立地を間違うな』と言っています。交通が不便な場所では人が集まらないからです。また採用活動と共に、若手を辞めさせないよう努力しなさいとも言っています。DXを導入すれば、より強く若い布陣を保つことができ、企業が生き残る確率が上がります。

**【DXに対する拒否反応の超え方】**

森：人は同じ業務ばかり反復していると、どうしても専門に特化してしまい、他のことが考えられなくなります。DXへの拒否反応も同じことで、他の方法でやったことがないから怖いだけです。そうした反応を早いうちに消すため、当社は社員に様々なトライをさせています。YouTubeの番組作成（300本以上の動画を公開中）、ものづくり大会（半期に1度、社員がチームに分かれて新製品を企画・プレゼンする大会。優勝した製品は実際に販売する）、ジョブローテーション（若手社員が約2年をかけてグループ各社を経験する制度）もそうです。

私は「飽和曲線」と呼んでいますが、どんな業務も大体5年で7割仕上がり、6年目以降は慣れ状態になるので、成長速度はゆっくりになります。人はストレスから逃げたいがために、学ばなくなるためです。複数の業務の視点を持っておけば、社員は臆さずにいい意味の「負荷」を掛けてもらうにはどうしたらよいのでしょうか。

森：人それぞれ個人差があるので、始めから若い人よりも長い時間が掛かると想定することです。ビールで一杯なら自分へのご褒美の時間に使ってもらうのだと理解を得ながら『時間をかけて徐々に向き合っていい』と伝える。ANDPADの操作は超簡単なので、年長の方の気持ち次第だと思います。

**【今後の方向性】**

長屋：ANDPADは住宅業界からスタートしたため、設備工事向けの機能要望を多く頂きながら、開発を続けています。またサポート面では、当社は導入企業の数だけ運用パターンを知っていることが強みです。業界でもうまくいくパターンも蓄積しています。新たに導入頂く際も「こうやったら失敗する」と見通した上で、その会社向けにDXの運用を提案できます。導入しても使いこなせないと意味がないため、サポート人員を強化し、DXを伴走できるパートナーで在り続けたいと考えています。

一般的なデジタルツールは、現場代理人はフクになるのですが、工事部長や経営者向けの機能がないことも多いです。ANDPADは工事部長向けにも各現場の進捗を横断で確認できる機能を用意しており、また経営者向けには実行予算の管理機能もあり、利益を出すまでの支援ができます。各層に対して意味のあるDXを進められるようにラインアップを揃えています。同時に、一つの現場で関係者全員がANDPADを使い、うまく運用する世界もつくっていきたいと思っています。

森：ANDPADを使えば間違いなく判断が速くなります。そうすれば、建築工事や他の設備工事との間で進捗に関わるトラブルが減り、事故も減るでしょう。関係者と注意事項を共有することで「言った言わない」のトラブルも防げます。ミスやクレームに対処するには通常の4倍のエネルギーが要りますから、これは大きいことです。

「パレートの法則（2：8の法則）」というものがあります。これはあらゆる組織で、上位2割の人たちが売上全体の8割を作っているという法則です。私は、DXによる業務効率向上によって、強烈な業務処理をこなしている、この上位2割の人たちに時間をつくって頂きたいと思っています。自分への時間や家族、子供との時間や趣味の時間を持てるようになること。私たちは仕事をするために、利益を生むために、生まれてきたわけではありません。彼らの人生の時間を取り戻すために、建設業界ではANDPADが間違いなく寄与するでしょう。

ヤブシタ・森社長

## 老いないDXへの投資は当前

### 伴走パートナーで在り続ける

アンドパッド・長屋執行役員

人間は年を取れば老い、体力も記憶力も低下します。企業の立ち位置が入れ替わるのもそうした老いが原因です。ところがDXやAIは老いません。導入したら君臨し続けます。先にANDPADを導入した企業に、後から導入した企業は追い越すことはありません。すなわち『入れたもの勝ち』の状況が続くからこそ、DXは『当たり前』の設備投資なのです。

当社は今月から新入社員に言語AI（ChatGPT）の教育を始めます。新入社員は生産性が低いですが、AIと組ませることでボトムアップできます。まずは先輩社員の文章、Excel、PowerPointの作成をサポートしてもらいます。役割が見えてくるので新入社員も楽しいでしょうし、ひょっとしたら、入社5年目の社員が負けてしまうかもしれないと考えています。

森：中小企業の建設・土木作業員の平均年齢は45歳前後、一方でヤブシタ冷熱設備の平均年齢は35～36歳と若いです。今後、高齢化により仕事を受けきれない会社が多くなると、若い人の採用さえ間違わなければ、黙っていても仕事は来る。私はヤブシタ冷熱設備に『立地を間違うな』と言っています。交通が不便な場所では人が集まらないからです。また採用活動と共に、若手を辞めさせないよう努力しなさいとも言っています。DXを導入すれば、より強く若い布陣を保つことができ、企業が生き残る確率が上がります。

**【DXに対する拒否反応の超え方】**

森：人は同じ業務ばかり反復していると、どうしても専門に特化してしまい、他のことが考えられなくなります。DXへの拒否反応も同じことで、他の方法でやったことがないから怖いだけです。そうした反応を早いうちに消すため、当社は社員に様々なトライをさせています。YouTubeの番組作成（300本以上の動画を公開中）、ものづくり大会（半期に1度、社員がチームに分かれて新製品を企画・プレゼンする大会。優勝した製品は実際に販売する）、ジョブローテーション（若手社員が約2年をかけてグループ各社を経験する制度）もそうです。

私は「飽和曲線」と呼んでいますが、どんな業務も大体5年で7割仕上がり、6年目以降は慣れ状態になるので、成長速度はゆっくりになります。人はストレスから逃げたいがために、学ばなくなるためです。複数の業務の視点を持っておけば、社員は臆さずにいい意味の「負荷」を掛けてもらうにはどうしたらよいのでしょうか。

森：人それぞれ個人差があるので、始めから若い人よりも長い時間が掛かると想定することです。ビールで一杯なら自分へのご褒美の時間に使ってもらうのだと理解を得ながら『時間をかけて徐々に向き合っていい』と伝える。ANDPADの操作は超簡単なので、年長の方の気持ち次第だと思います。

**【今後の方向性】**

長屋：ANDPADは住宅業界からスタートしたため、設備工事向けの機能要望を多く頂きながら、開発を続けています。またサポート面では、当社は導入企業の数だけ運用パターンを知っていることが強みです。業界でもうまくいくパターンも蓄積しています。新たに導入頂く際も「こうやったら失敗する」と見通した上で、その会社向けにDXの運用を提案できます。導入しても使いこなせないと意味がないため、サポート人員を強化し、DXを伴走できるパートナーで在り続けたいと考えています。

一般的なデジタルツールは、現場代理人はフクになるのですが、工事部長や経営者向けの機能がないことも多いです。ANDPADは工事部長向けにも各現場の進捗を横断で確認できる機能を用意しており、また経営者向けには実行予算の管理機能もあり、利益を出すまでの支援ができます。各層に対して意味のあるDXを進められるようにラインアップを揃えています。同時に、一つの現場で関係者全員がANDPADを使い、うまく運用する世界もつくっていきたいと思っています。

森：ANDPADを使えば間違いなく判断が速くなります。そうすれば、建築工事や他の設備工事との間で進捗に関わるトラブルが減り、事故も減るでしょう。関係者と注意事項を共有することで「言った言わない」のトラブルも防げます。ミスやクレームに対処するには通常の4倍のエネルギーが要りますから、これは大きいことです。

「パレートの法則（2：8の法則）」というものがあります。これはあらゆる組織で、上位2割の人たちが売上全体の8割を作っているという法則です。私は、DXによる業務効率向上によって、強烈な業務処理をこなしている、この上位2割の人たちに時間をつくって頂きたいと思っています。自分への時間や家族、子供との時間や趣味の時間を持てるようになること。私たちは仕事をするために、利益を生むために、生まれてきたわけではありません。彼らの人生の時間を取り戻すために、建設業界ではANDPADが間違いなく寄与するでしょう。